

は三種兼備して、萬代の御まもりもかひあるこゝちし侍る、一人慶あれば兆民頼之といへり、諸國も穩にして、天下を治給ふこと三十餘年、文武天皇以後は、たゞひなき寶祚の延長にてぞまします。

〔梅花無盡藏〕中原一寶赤松之徒、入吉野奪神靈。朝故相國方丈頌用此題。

忽運子房帷幄籌、官軍奪壘叫千秋、今朝再入吾王手、風不鳴條四百州。

〔江家次第十二月〕内侍所御神樂事

十二月中、撰吉日被行候所陰陽師勘申之行事、藏人仰内藏寮、掃部寮、大膳職、修理職等、自南殿艮橋作借長橋、陣座後柱外、并綾綺殿西砌上終額間、又被定召人、殿上人六人堪絃者陪從六人清撰衛府召人六人近代、以本節資子孫、爲本拍子。

放綾綺殿東簀子、南渡殿北簀子、本方座敷北土渡殿殿上召人在東地下、末方座敷南渡殿簀子跡准本方北面殿上人座敷綾綺殿東砌東面、每座前居衝重生火、本末座後敷衛府召人座不給火等、綾綺殿額間西砌立鐵輪燒庭燎、自清涼殿額間簀子、同南廊長橋借作打橋、南殿北簀子等上敷筵道溫明殿神殿前敷御拜御座半幅一枚高麗端、西廂額間立廻大宋御屏風二帖、其内敷滿廣筵供平敷御座繕綢一枚、圓座一枚。

入夜時刻渡御位袍御  
插鞋

先是御笏御插鞋置殿上前御膳棚及期藏人頭獻御插鞋

出自額間經廣廊南廊長橋、南殿北簀子借打橋綾綺殿內南渡殿等入御内侍所神殿前御拜御座、

頭中將取畫御座御劍前行、頭一人候御裾五位藏人六位等取御笏管相從、侍臣候脂燭、

先是大膳職以打敷神膳等并傳女官付女士女士付掌侍、掌侍付陪膳典侍、典侍供神御前、

高杯物六本